

JSPS科研費 21K02440および23K02686の助成を受け実施した一部である

日本教育心理学会第66回総会 自主企画シンポジウム

地域課題解決へと向かう教育者を育てる

教育心理学者の七転八起

準正課プロジェクトにおいて

学生のエージェンシーを引き出すには

高知大学における準正課活動の実践事例に着目して

高知大学 野中陽一郎

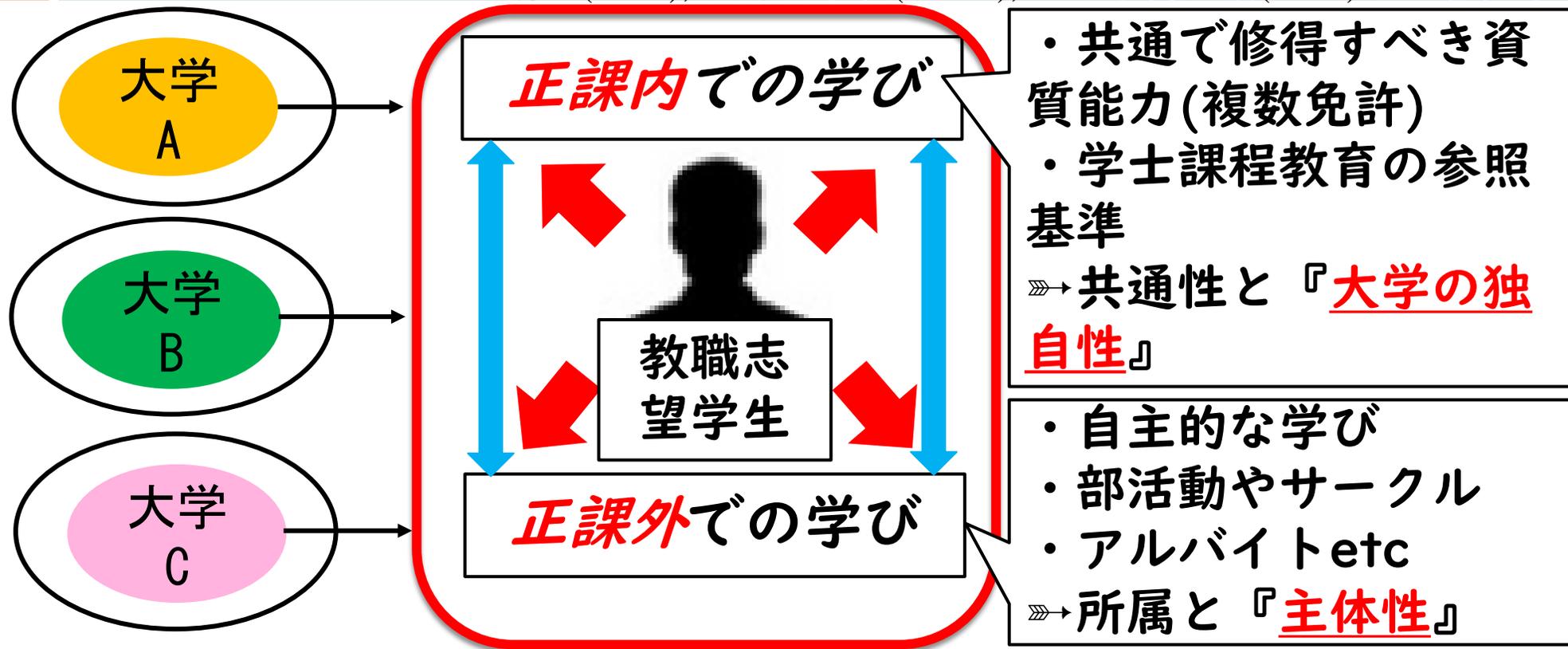
JC01

2024年9月14日(土)

教員養成課程における大学生の学びの捉え方

2

溝上(2009), 文部科学省(2017a), 日本学術会議(2021)などを参考に



- 教職課程コアカリキュラムによる学び(2019年度~)
- 正課『外』での子どもとのかかわりに関するニーズ

携わっている『大学生の学び』の『場』の創出・支援

⇒ 大学教員の専門性や大学生のニーズを踏まえつつ

3

☑ 準正課活動の工夫 学習開発活動 (☆)



高知大学教育学部



☆ 正課外での学びから～
⇒ 何らかの教員側の支援
⇒ 般化可能？ 独自性？



教育学部附属幼稚園

☑ 授業時間外学習の工夫
安全教育の事後確認に活用
出来る『紙芝居教材』の開
発と実践



教育学部附属小学校

☑ 準正課活動の工夫
『言葉と数の教室』(1)

『朝活・フレッシュタイム』



公立中学校

☑ 準正課活動の工夫 (2)
『あそ部』 『学びSTATION
— 数学教室 —』
『Lets Enjoy English』
+ 授業支援

正課における『学校体験活動』の現状 と課題解決

4

文部科学省(2017b), 森下(2020)などを参考に

★学校現場との連携上の課題

学校現場のニーズ

✕ マッチング出来ていない

学生のニーズ(事情)

⇒ 『調整や準備』と
『実践の場』の課題？

★学生の活動上の課題

★運営管理上の課題

学生による活動の質の
低下

学生の活動状況の把握
が出来ていない

⇒ 『主体性』と『活動目的
や内容』の課題？

⇒ 大学教育学部と教育学部附属学校園との連携強化

⇒ 附属学校園の存在意義・役割・特色の顕在化？

高知大学教育学部の体制と意義

『高知大学教育学部と高知大学教育学部附属学校園の
共同研究等推進体制に関する要綱』を参考に

『共同研究等推進体制に関する要綱』の策定

⇒平成30(2018)年7月11日高知大学教育学部教授会承認

学部と附属学校園が行う**特色ある
教育研究**の推進・充実を図る

教育学部

様々な研究

附属学校園

共同研究等の円滑な実施に必要な連絡調整を行う『**高知
大学教育学部・附属学校園共同研究コーディネーター**』

- ☑ 附属学校園教員と大学教員との**関係性**構築
- ☑ 附属学校園や大学の**様々なニーズ**のくみ上げ
- ☑ 各教員の**専門性**を活かした連携等の素地

附属小学校と連携・協働し具現化した 『言葉と数の教室』という包括的な学習支援環境

6

教職志望学生の
ニーズ

子どもとかかわる経験
教員としての資質能力の向上

附属学校園の
ニーズ

小学1年生に対する『学習支援』
個に応じた授業外での個別支援

授業外だからこそ実施可能な「学びを多角的に捉えた活動」による児童の学びに向かう力の育成に

学習困難の可能性を
早期発見・早期支援

学ぶ意欲の向上
個別最適な学び

言葉や数に関する困
難さの軽減・解消

各教員の専門性
特別支援の専門
性に基づく活動
の多角的支援

言葉と数の教室

教育心理学に基づく省察の
充実・プログラム開発と評価
★教職志望学生の成長に!

各教員の専門性
国語・算数の専
門性に基づく活
動の多角的支援

『言葉と数の教室』の実践概要

－2022年度の教職志望学生の学びを参照しながら－

7

附属学校教員と大学教員の連携・協働
による大学生に対する**事前指導**

担当児童の有する**特性の共有**
活動準備【活動内容・教材候補の提供】

言葉と数の教室(週1・2回)【担当児童の実態やニーズを踏まえ**準備・実践**】

第1期：6月8日～7月15日

第2期：10月17日～2月3日

・担当児童とともに学びを創る

★簡易的な振り返りと実践報告の作成

★**振り返りの会**【6月29日・7月15日・1月11日・2月3日】

チャンネル

一般

「言葉と数の教室」当日欠席連絡用チャンネル

「言葉と数の教室運営面」検討 白

2022年6月29日振り返りの会

2022年7月15日振り返りの会

2023年1月11日振り返りの会

2023年2月3日振り返りの会

2023年5月24・25・26日大学内事前指導

2023年5月31日・6月2日附属小学校事前指導

アセスメントツール

気になることや質問コーナー

実践報告

実践報告(附属学校および大学共有) 白

第1週目の活動内容

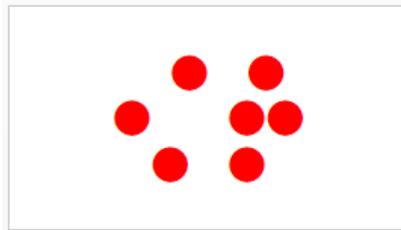
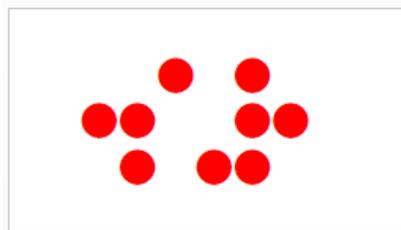
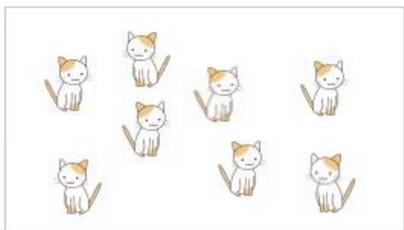
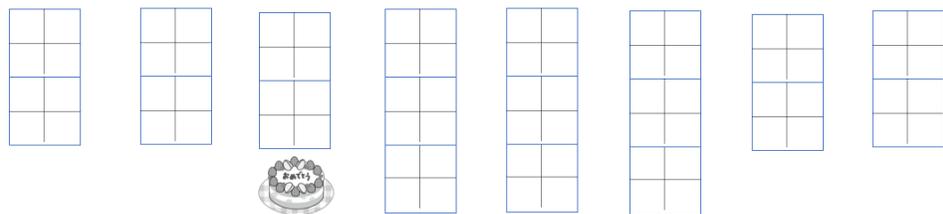
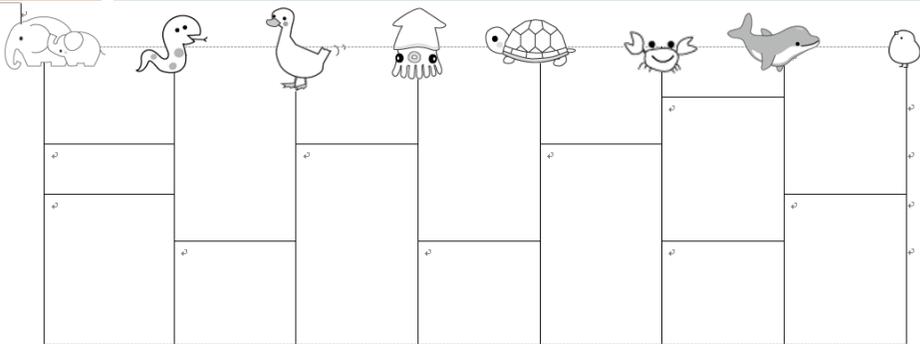
第2期「言葉と数の教室」教材

第2週目以降の活動内容

保護者懇談活用(大学生の捉えた児童のポジティ... 白

児童の学びを豊潤化させる『教材』開発の手順と進化 ⇒『意図や目的』を踏まえた『真正な教材』と『活動』に

8



★活動を豊潤化させる教材候補

⇒教材候補を再構成，担当児童の特性・ニーズ等に応じて自作教材の開発

★お買い物ごっこ：紙で作った硬貨(500・100・50・10・5・1円玉)と5～150円までのお菓子カードを用意し，200円のお小遣いで好きなお菓子を買うゲーム

⇒お菓子の名前(ひらがなもカタカナも混在)と値段を正確に書くとお菓子の購入可能

注目すべき実践研究の焦点（大学生側）は？

－児童に対する活動場面を参照して－

9



- 国語・音楽という**専門性・所属**の異なる学生間の教材開発？
- 大学1年生・3年生という**学年**の違いにより生まれるもの？
- 活動期間という**時間**の差異？

氏名		日付 時間	例) 2022年 月 日 例) 14時40分~15時10分
場所		児童名(クラス・氏名)	
■実践日の 自分自身の目標 (前回の内容を踏まえて次回どうするかを記載しておくといよい)			
■実践日の 児童自身の目標 (児童自身に本日何を頑張るか考えてもらう)			
■実践日の概要 (時間の流れに沿い、活動を思い出し、どんなことをしたのか箇条書きに)			
.			
■児童の気になったこと (学びの環境づくりでもOK) に関する情報 →なぜ気になったのか、どんな行動をしたのか、自身との関わりの状況等、把握出来た範囲で子どもの特徴を記載しておく			
.			
■児童の気になったことを支援する上で必要になるのではないかとする視点 →ニーズや会話内容、関わった対応内容から、必要になると思える視点を記載しておく			
.			
■本日の実践で児童に関わる上で配慮出来たポイント・配慮出来なかったポイント			
○配慮できたポイント			
.			
○配慮できなかったポイント			
.			
■本日の実践を通して調べてみたいことや課題			
.			

学生の教育実践を豊潤化させる **リフレクション**の場と時間

荒木(2015), 姫野ほか(2004), 松木ほか(2011)などを参考に

- ・『振り返る機会』の欠如
- ・リフレクションや長期の実践記録の意義

⇒⇒ 毎回の **実践報告書**の作成
【協働・連携により作成】

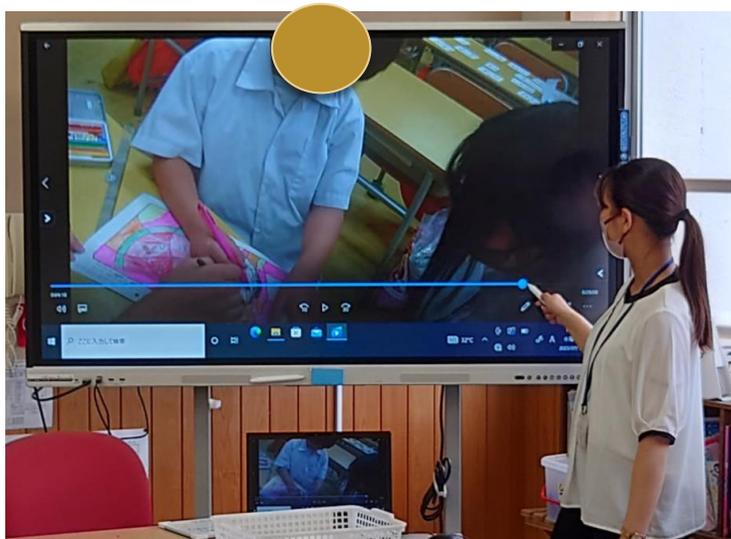
⇒⇒ 実践報告書に対する大学
教員による **フィードバック**

⇒⇒ 相互閲覧可の **オンライン**
上の共有ファイルの確立

⇒⇒ **振り返りの会**の設定

リフレクションの場での学びの姿

－振り返りの会を参照して－



- 『自分の活動動画』
を踏まえた振り返り
の実施

⇒ 過去と現在そして未来と
いう時間軸の領域横断

- 『教材』 『活動内
容』 『意図』 等に対
する他者のコメント

⇒ 自分と自分以外の様々な
他者との交流の場



公立中学校と連携した「提案型プロジェクト」

⇒ 何を目的に何を主体的に実施するか

12

・ あそ部（運動プロジェクト）：2022年度【前後期】

⇒ 保健体育教師(中学校)志望学生2名【同一学年:実施時3年】による『運動(「できた」・「楽しい」を感じられる簡単な運動)』

・ 学びSTATION－数学教室－：継続中

⇒ 数学教師(中学校・高校)志望学生(代表学生1名と同一学年のコースの学生の存在：実施時3年&後輩(他学部含む))による『**数学の学び**(数学が苦手な生徒への体験型の学び)』の企画実施

・ Lets Enjoy English(英語プロジェクト)：継続中

⇒ 中高の英語の免許取得希望学生2名(代表学生1名主導：留学生参加)による『英語の学び(外国の人と実際に話す体験を目標に表現の伝え方等を学ぶ)』の企画実施

『あそ部』に関する概要



「遊び」と「部活」を合わせた「あそ部」運動・スポーツをしながら身体を動かす時間を「あそび」として設け、「部活」のように毎週活動する「あそ部」を始めます！

運動部、文化部、部活に入っていない人など、誰でも参加OKです！易しい運動を行うので運動が苦手な人でも大丈夫です！

他学年とも交流できる活動になっています。みんなで身体を動かして楽しみながら運動習慣を身に付けませんか？

たくさんの参加お待ちしております！
(学校の部活動とは関係ありません)

活動について

活動予定月 6月～7月、9月～12月、1月～3月（長期休暇、テスト期間中は活動しません）

活動日 毎週水曜日

活動時間 15:00～15:30

活動場所 グラウンドまたは体育館

服装 体操服または運動のできる服装
※毎週参加できなくても大丈夫です。

コロナ対策

コロナ感染対策として、活動前の検温、マスク着用、手洗い・うがいをお願いします。風症状、体調がすぐれない場合や、37.5℃以上は参加をご遠慮ください。活動時は、準備運動、給水の時間を設けます。各自、水分を持参してください。

活動内容について

- ・サッカーボーリング
- ・サッカー
- ・大縄
- ・ボートボール
- ・バスケット
- ・ふえ鬼
- ・ボール慣れ運動
- ・バドミントン
- など

運動が得意な人も苦手な人も楽しめる運動・スポーツ、ルールで行います。



参加を希望する場合は、左のQRコードを読み取り、参加申込書にすべて回答してください。締め切りは5月27日（金）です。あそ部は、活動中の事故については学校管理下での怪我の補償となります。そのため、参加する場合は、保護者の承諾を必要とします。

運営：
代表：



モルック

みなさん、モルックを知っていますか？モルックは、フィンランド発祥で、簡単なルールで老若男女問わず誰もが気軽に楽しめるものとして考えられたスポーツです。『モルック』と呼ばれる木の棒を投げて、『スキttl』と呼ばれる数字が書かれた木の棒を倒して点を取っていくゲームです。2週にわたって、モルックの活動を行います。一緒にモルックをして遊びませんか？たくさんの参加お待ちしております！

モルックについて

活動日 11月2日（水）・9日（水）

活動時間 15:00～15:30

活動場所 運動場

服装 運動できる服装または体操服

どちらかの日のみ参加でもOKです！

コロナ対策

コロナ感染対策として、活動前の検温、マスク着用、手洗い・うがい・手指消毒をお願いします。風邪症状、体調がすぐれない場合や37.5℃以上は参加をご遠慮ください。活動時は準備運動、給水時間を設けます。各自、水分を持参してください。



左記のQRコードを読み取り、全員、参加の有無について回答をお願いします。回答期限は10月31日（月）です！あそ部は、活動中の事故については学校管理下での怪我の補償となります。そのため、参加する場合は保護者の承諾を必要とします。

運営：
代表：

『あそ部』に関する事例—導入期—

距離

学校の活動

校長先生からだけでなく、
体育の先生から本プロジェクトへの
意見や好評を頂く機会があったら
よかったかもしれない(5, +)

活動を行う学校の生徒の特徴や
普段の様子を知る機会があったらよかった(3, +)
活動を行う学校の
取り組んでいることや学校の特徴など、
その学校のことを知る機会があったら
良かった(7, ±)
活動を行うにあたり、先に生徒の所属部活や
運動の状況を知っておいたほうが
よかったかもしれない(4, +)

他のプロジェクトを進めている学生と
つながる機会があったらよかった(2, +)

交流

他プロジェクトと計画の進捗状況や
情報の共有(8, ±)

第三者の声

計画や作成したポスターについて、
他者から自分が中学生だったら参加したいか
どうかの意見を聞く機会(10, ±)
他のプロジェクトの人たちから
自分が行う予定の活動についての
意見や感想を言ってもら
(第三者の声)(9, ±)

メールで文章のみのやりとりだけでなく、
顔を合わせて口頭でZOOM等
での話し合い・相談会(1, +)

これでいいのかと悩むことが多く、
こうしたほうがいいのか
という一言や助言(6, -)

□ 連想刺激: 今回の活動を進めて行く
中で**どのような支援や機会**があっ
たらもっと良かったと思いますか

⇒ **10の連想反応**と3つのクラスター
を見出した!

⇒ 『交流』『第三者の声』は同一校
の他のプロジェクトとより**積極的な
交流**を開始&**対面での相談**の実施

⇒ 『学校の活動』は**事前指導**や**申込
&振り返り**での対応

*参加中学生の募集 ⇒ 1学期の活動
終了後【本研究ではこの2つの活動
時期の差異に着目】

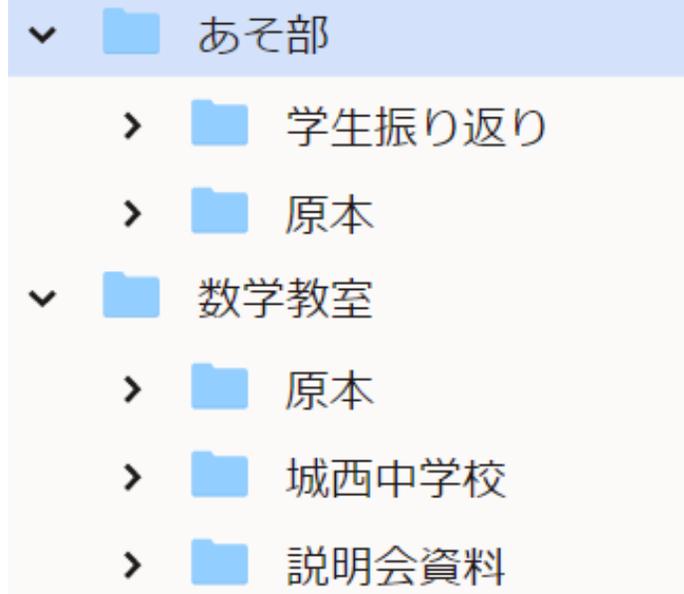
『あそ部』と『数学教室』の交流

15

□ プロジェクト間での交流

⇒ 『Dropbox』内での『各自の振り返り』を活用したプロジェクト間の交流実施

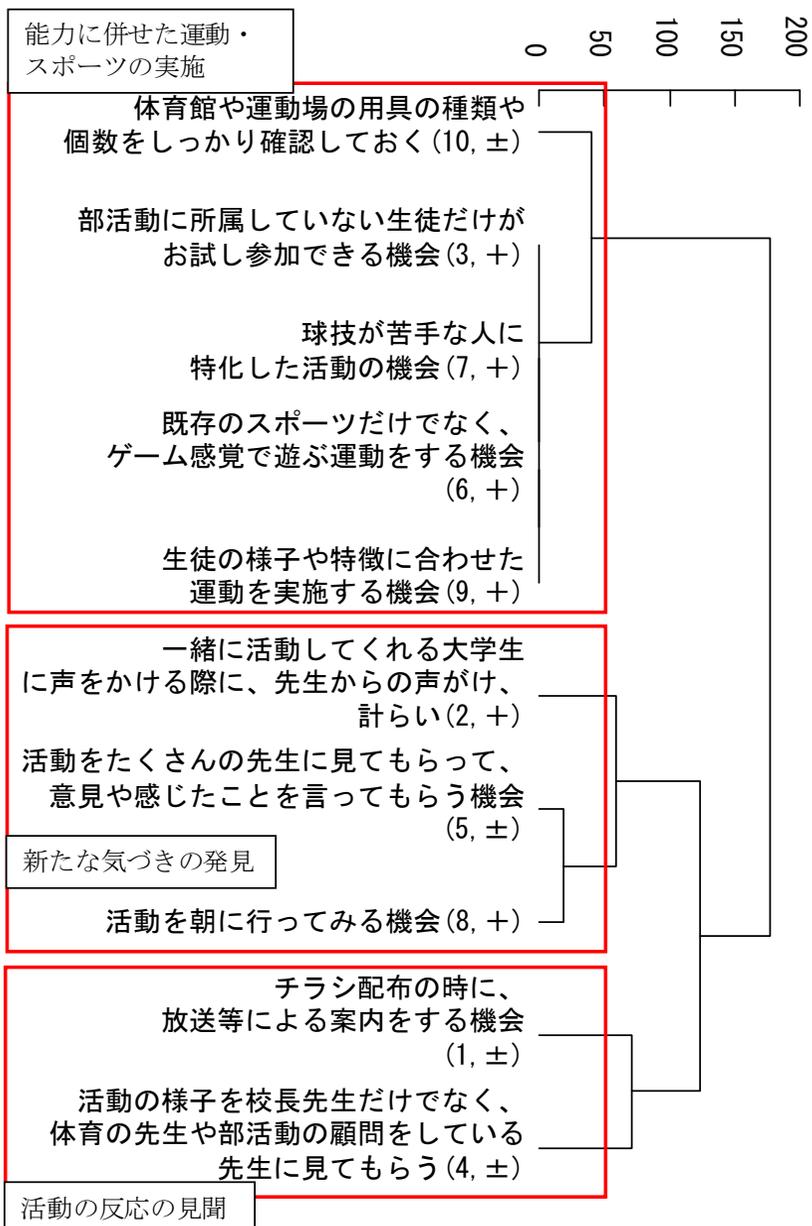
*大学生間で実施出来たものではなく教員が支援



□ 活動改善のために

⇒ 『Formsへの回答(中学生側の振り返り:今後活動内容の検討に介す)』を求めていたが回収率が不調(2回目時点)⇒紙媒体で実施し振り返りを含めた活動に改善

『あそ部』に関する事例—活動前期—



□ 同一の連想刺激

⇒ **10の連想反応**と3つのクラスターを見出した！

⇒ 『能力に併せた運動・スポーツの実施』は参加生徒への着目と工夫

* 中学生への適切性の模索

⇒ 『新たな気づきの発見』と『活動の反応の見聞』は所属している教員からの支援や視点の必要性

* 当該活動への評価の模索

⇒ 1回目の内容と比較し、活動主体である参加生徒とこのこと、活動を展開する際の学校側の意見(評価)を求めていることが示唆された！！

『公立中学校』で継続される活動

学びSTATION

～数学教室～

【対象生徒】 数学が苦手な中学1年生、2年生
【募集人数】 16名
【実施場所】 
【実施期間】 2023年5月～2024年3月
【実施日時】 毎週水曜日14：50～16：20
【申込方法】 QRコードから回答
【申込締切】 4月28日（金）18：00
【開始日】 5月10日（水）14：50～

申込はこちら

- ①スマートフォン・タブレットなどでQRコードを読み取る
- ②Formsな必要事項に回答
- ③Forms内の“送信”を押す



△保護者の承諾を得た上で申し込みをしてください。

途中参加、途中退出○

『内容』

学校の授業の復習、テスト対策、数学を使ったゲーム

数学が好き、楽しい



テストの点数UP



問題演習



自分のできるところ、できないところの把握



運営：高知大学
代表：高知大学

2023

Let's Enjoy English

外国の人といろいろな遊びを通して交流しよう！
さまざまな英語の表現を使ってみよう！

昨年は...

- ・簡単な英語で自己紹介
- ・留学生の出身国について知る（食べ物や観光地、文化などなど）
- ・カルタや折り紙、神経衰弱
- ・各国の昔遊びを体験！



昨年参加してくれた生徒の声

楽しかった！またやりたい
もっと英語で話したい！

今年をもっともっとお話しする時間を増やして、
どんどんバージョンアップさせていきます！！

参加対象：中学1、2年生

募集人数：10人

場 所： 

日 時：毎週水曜日 15：00～16：00

活動開始予定日：11月1日



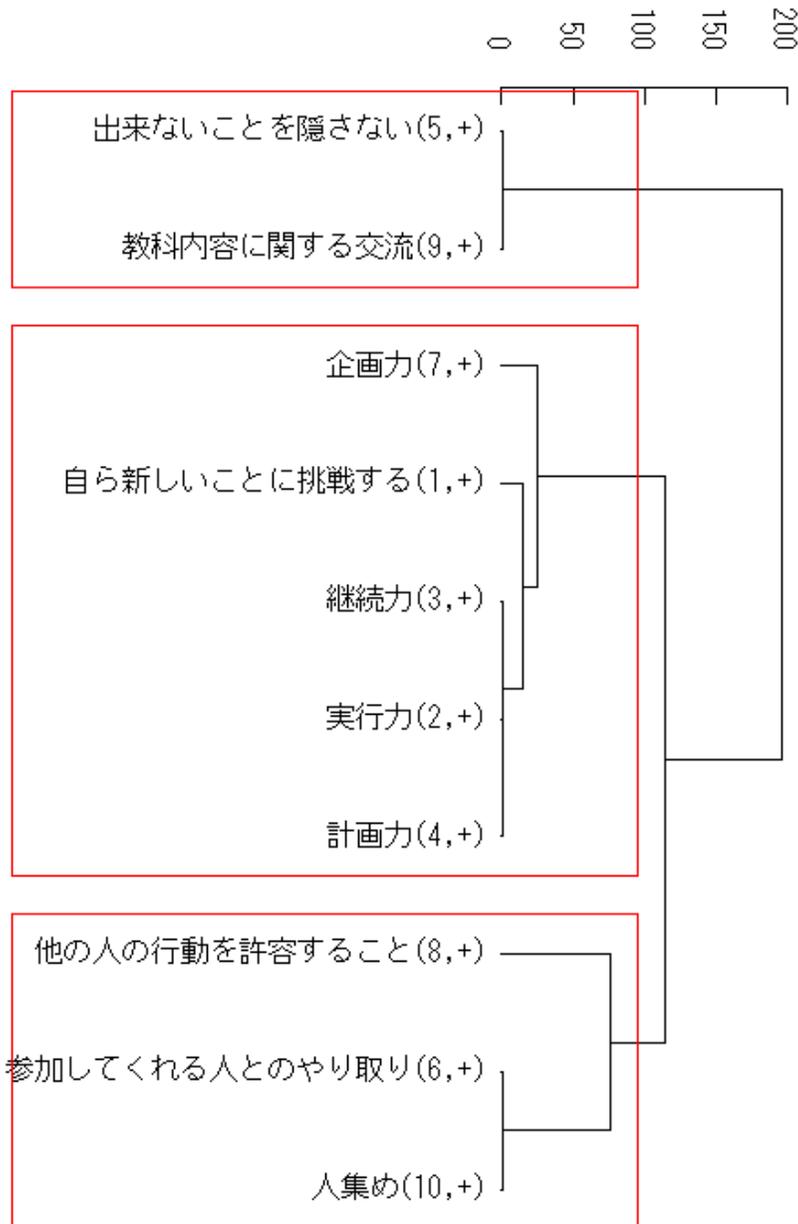
お申込みはこちらのQRコードから



必ず保護者の方の許可をもらってください。
締め切りは10月27日です！

大学生(学びstation)の捉えた『成長』

18



□ 同一の連想刺激

⇒ **10の連想反応**と3つのクラスターを見出した！

⇒ 『**教科力**』

*他クラスターとの距離からも独自性を備え，学びを中学生と共に創っていく上で成長を可視化した内容：
構成員時

⇒ 『**プロジェクト制作**』

⇒ 『**コミュニケーション力**』

*共通点が示唆され，大学生が準正課活動を創り実践する中で顕在化した成長，**他の準正課活動にも般化出来る可能性有**：代表時

『学びSTATION—数学教室—』

『Lets Enjoy English』 → 中学生のニーズ

大学生が教えます！
興味あったらぜひのぞいてね♪

学びSTATION

～数学教室～

毎週水曜日放課後
14:50～16:20

少人数教室



活動内容

- 01 授業の復習
数学を始めとする授業で分からなかった部分をはっきりと！
- 02 テスト対策
テスト直前はテスト範囲他教科の質問もOK！
数学を使ったゲーム
- 03 数学を使ったゲーム
数学を使ったゲームをしています！

参加しているみんなの声



大学生と気軽に話せて楽しい！
テスト前は他の教科も勉強できる。



申込方法

スマートフォンまたは、タブレットで下のQRを読み込み、質問に答えてください。
締め切りは、5月2日火曜日です。



参加学生

高知大学 教育学部	4年生2名 3年生1名
理工学部	4年生1名 3年生2名
人文社会科学部	3年生1名

運営代表

高知大学 1年生～4年生（有志学生）
高知大学 教育学部 教育科学コース3年

2024年度

Let's Enjoy English

外国の人といろいろな遊びを通して交流しよう！！
さまざまな英語表現を使ってみよう！

去年は...

- ・簡単な英語で自己紹介
- ・留学生の出身国について知る（食べ物や観光地、文化など）
- ・カルタや折り紙、神経衰弱
- ・各国の昔あそびを体験！

もっと英語を話せるようになりたい、英語に興味がある！
そんなみんなを大歓迎！



昨年参加した
生徒の声

とても楽しかった！
英語を身近に感じる事ができて、テスト勉強のやる気が出た。また参加したい！



いっぱい話して、
英語力アップ！

参加対象：中学1年、2年生
募集人数：10人
場 所：城西中教室
日 時：毎週水曜日15時～16時
活動開始予定日：5月15日

お申し込みはこちらのQRコードから
必ず保護者の方の許可をもらってください。



Let's Enjoy English 2024 申し込み

運営：高知大学有志学生

活動の捉えられ方？

20

- 日本教育新聞〔四国版〕
2024年1月22日付3面
- 『授業支援』や『教員不足解消』という捉え方？
- 学校運営協議会
→ 学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、**地域とともにある学校づくり**
* 広報的に扱われているか？〔生徒側のニーズ？〕

高知大生が中学生の授業支援

高知市立城西中学校（青木和秀校長）と、高知大学教育学部教育心理学研究室では、昨年11月から、学校および教員の抱える負担軽減、学びの主体者である中学校生徒のさらなる可能性を育むことを目指し、協働連携した新たな学習支援を、大学の準正課活動として行っている。

準正課活動とは、「授業とは異なる形で、教員による教育支援を行う仕組みのもとでの取り組み。単位の付与はありませんが、大学が公的支援を行う」もの。協働連携の取り組みの一つに、水曜日の放課後に行われる「学びSTATION」数学教室」と、「Let, s En



カードゲームに熱がこもる

Joy English h」がある。「学び」は、数学が苦手な1、2年生を対象に、授業の復習やテスト対策などを行う。「Let, s」は、「親しみを持って学習に

高知大学の留学生などを交えながら、ゲームなどを通して英語を使って交流するというもの。「学び」は、一足早く昨年5月から開始している。年齢の近い大学生に教えてもらうことにより、「親しみを持って学習に

取り組むことができる。また、学校側にとっても、教員不足の時代に、「大変助かる」という。もう一つの取り組みは、月、水曜日の数学と国語の授業で、教師と大生で行うチームティーチング。こちらの取り組みは、学生も課題を設定して、大学での研究のために役立っているという。

これらの取り組みを進めていく上で、城西中学校の学校運営協議会も一役かっている。高知大学の野中陽一朗准教授も協議会のメンバーであり、取り組みを進めていく上で大いに活躍している。

『言葉と数の教室』と『学びSTATION－数学教室－』

2024年度教育学部向け新規募集

→1年生〔新入生〕の求めるニーズにマッチ？

21

児童生徒に対する学習支援活動者の募集

趣旨

学習が苦手な小学校1年生に対する学びの支援(言葉と数の教室)、中学生を対象とした様々な学びを支援することに興味関心がある学生を募集し、主体的に活動してもらうプロジェクト研究を進めています。

小学1年生に対する学びの支援の内容は、国語や算数あるいはその土台となる活動、中学生に対する学びの支援の内容は、大学生の専門性や興味関心を活用する活動であり、両者とも児童生徒の学びを創るための準備や実践、振り返りを科学的に展開します。

内容

興味関心がある方

下記のQRコードからFormsへの回答を19日12時までに行い、4月24日(水)の説明会に参加してください。Formsへの回答を頂ければ、説明会に参加できない方々に資料などを19日以降にメールで送付します。説明会を聞いた上での参加決定を決めて頂いても構いません。

【説明会】
4月24日(水) 12時10分～12時50分
教育学部11番教室で実施

教育科学：野中陽一朗
ynonaka@kochi-u.ac.jp

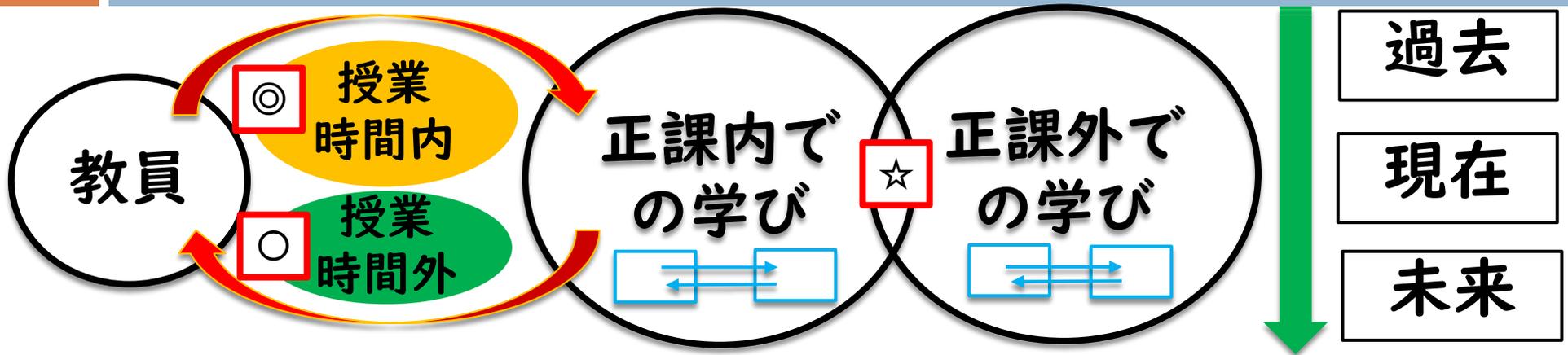


言葉と数の教室の募集ポスター。中央には「言葉と数の教室」という大きな文字があり、その周囲には「期間 半年 or 一年間」、「場所 高知大学教育学部附属小学校」、「活動について 言葉と数の教室とは？ 主に小学一年生の児童を対象に学びの支援を行う活動。学生間で協働しながら児童の学びをサポートし、児童のつまづきを解消することを目的としています。」、「こんな学生さんを募集しています！ 教員志望の学生、子どもと真摯に向き合える学生、小学校段階の教育に興味関心のある学生」、「どんな児童 いろんな個性を持つ児童がいます！ 言葉と数の教室では、「学びに色々な助けが必要な児童」を対象に活動を行っています。そのため活動では、一人一人児童に合わせた支援内容を考えていただくこととなります。」と募集の条件や活動内容が紹介されています。

□ 4月17日
教育学部1年生
必修授業でチラシ配付→24日
説明会
→事前申込18名
→飛び入り参加
学生3名
*21名(15%)

大学生が様々な学びを発揮する場の創出 — 大学教員が戦略・意図をもって共に創り出す重要性 —

22



- 他者の専門性の理解や相互尊重の芽生え
- 自分の役割や専門性(強み)の位置づけ・課題の発見
- 学びを包括的に捉えられるようにための方策

